

リーディングDXスクール事業【実践事例】

熊本市立五福小学校(熊本県)

【取組内容①】タブレット端末を活用した、探究学習と表現活動の充実

探究学習の中の情報収集、整理分析、まとめ表現のどの場面においてもタブレット端末を活用した。特にまとめの場面では、各学年の実態に合った方法で表現活動を取り入れた。



低学年



写真をつなぐ
動画



一つの表現方法に取り組み、慣れる

中学年



プレゼン



音声入り
動画

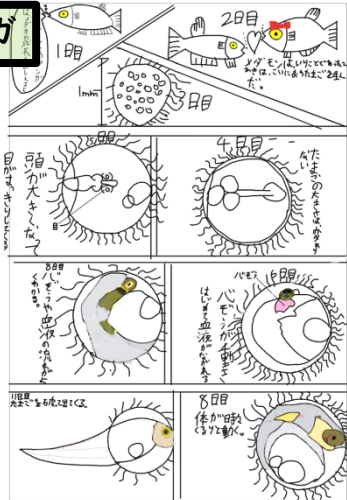
様々な表現方法に取り組み、それぞれの特色を知る

高学年

マンガ

ラップ

ラップ
8月9月に台風現れ
日本の南に発生中
北、東にカーブ
沖縄は多くて北海道はすーくーない
多くの被害をもたらすよ
電柱、木折れ、土砂崩れ
みんなも台風には 気をつけよう！



カルタ

完了 現場	いろいろな 姿に変身	① いばい漁業	② 卵から成魚まで	魚の生態系がこ で完成！	生きたまま 車で運ぶ 活魚車だ	長崎の 主な漁業の 沖合漁業	光に集まる 集魚灯
③ 工場	④ 活魚車	⑤ いばい漁業	⑥ いばい漁業	⑦ プッシュカート	⑧ 活魚車	⑨ 沖合漁業	⑩ 集魚灯
⑪ 沿岸漁業	⑫ 活魚車	⑬ いばい漁業	⑭ いばい漁業	⑮ プッシュカート	⑯ 活魚車	⑰ 沖合漁業	⑱ 集魚灯
⑲ 沿岸漁業	⑳ 活魚車	㉑ いばい漁業	㉒ いばい漁業	㉓ プッシュカート	㉔ 活魚車	㉕ 沖合漁業	㉖ 集魚灯

今まで取り組んだことに加え、さらに多様な表現方法に取り組み、自分の伝えたいことに合うもの選べるようにする

リーディングDXスクール事業【実践事例】

熊本市立五福小学校(熊本県)

【取組内容①】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながる情報活用能力の育成

カリキュラムマネジメント

4学年 単元名『みんなにやさしい町「こぶく」～安心・安全な町について考えよう～』 問題の解決

身につけたい資質・能力

知識・技能 自然災害に備える取り組みを知り、社会科・国語科・図画工作科の技能を活かして表現する。
 思考・判断・表現 情報効果的に伝えるためにハザードマップの構成や内容を考え、表現を工夫する。
 主体的に学習に取り組む態度 振り返りを行いながら仲間や地域の方、公民館と話し合い、防災について

指導方法 プロジェクト学習 (社会科・自然災害から人々を守る) (国語科・防災マップを作る) (図工科・防災マップを作る)

学習活動 災害に対する備えについて知り、誰もが安心して暮らせるように災害マップを作る

学習評価 ○ふりかえりシートによる形成的評価
○パフォーマンス評価

問題：大きな災害の時にどう対応するのかわからない

1学年 単元名『だいきがいっぱい』 問題の解決

身につけたい資質・能力

知識・技能 自分と身近な人や地域、自然との関わりに基づき、図画工作科・国語科の技能を活かして表現する。
 思考・判断・表現 効果的に伝えるために、ICTの活用など表現の工夫を工夫する。
 主体的に学習に取り組む態度 振り返りを行いながら、積極的に友達と話し合い協力しながら、課題を解決しようとする。

指導方法 体験型学習による表現

学習活動 学校生活を通しての「だいき」を絵や言葉、写真、動画などで表現し、新しい1年生に五福小の様子を伝える。振り返りシートによる形成的評価
パフォーマンス評価

問題：学校のことを、まだ知らない。

個別最適な学び



自分の課題に合う表現方法の選択

こんなに多くの歴史

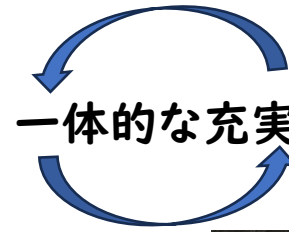
自分の意思

こんなにやく

～時代 出来事

自分の意思

こんなにやく



昨年度の反省(データは全てアプリ内で整理、保存)や、1学期の子どもたちの様子をもとに、地域に密着した「本物」の課題を設定。子どもたちの探求活動に合わせて、常にアップデートしていく。



欠席している児童とも協働



複数の端末で役割分担

協働的な学び

リーディングDXスクール事業【実践事例】

熊本市立五福小学校(熊本県)

【取組内容②】「インターネット上の動画教材の活用」

【概要】

低学年からインターネット上の動画教材を日常的に活用していくことで、子どもたちが主体的に学ぶツールとしての定着を図っている。低学年では、算数の図形や生活科など、動画の特性を活かして学習への理解を深めるために活用した。高学年においては、それぞれが知りたい学習内容に関連するお気に入りの番組を見て知識の定着を図ったり、言語活動として動画にまとめる際に、表現方法を参考にしたりするなど、学習の個性化・個別化へつながる活用が見られるようになってきた。

【活用した動画】

NHK for school
YouTube プロフェッショナル 仕事の流儀

発展期



動画で学習内容をまとめる際に、構成を読み取ることで、自分たちの動画に活かせるところを探す

必要に応じた
主体的な活用へ

発達段階に応じて...

導入期



理解を深めるための一斉活用

学習の個性化へ

学習の個別化へ

発展期



補充学習で活用し、
知識・技能の習得を図る

リーディングDXスクール事業【実践事例】

熊本市立五福小学校(熊本県)

【取組内容④】 共同作業アプリを生かした新たな校内研修のプロセスデザイン

プロセス1：従来の授業研究会をコンパクトにしたもの

学習支援ソフトの協働編集機能を活用することで、プロセス1をコンパクトにまとめ、プロセス2を充実させた校内研修の取組である。

2023.10.10(Tue.) 2年1組 佃先生 大研 指導案

良い点 と 改善点 で書き込む

主体性を鍛える 学習課題の工夫	子どもの探究活動や表現活動 を深める協働的な学びの工夫	学びを実感する 振り返りの工夫
<p>子どもが主体的に学習に取り組むよう、授業の前半から後半にかけて、段階的に学習課題を設定し、学習意欲を高める。</p> <p>授業内容をタブレットで共有し、学習意欲を高める。</p> <p>授業内容をタブレットで共有し、学習意欲を高める。</p> <p>授業内容をタブレットで共有し、学習意欲を高める。</p> <p>授業内容をタブレットで共有し、学習意欲を高める。</p>	<p>協働的な学びの場を創出し、子どもが主体的に学習に取り組むよう、段階的に学習課題を設定し、学習意欲を高める。</p> <p>グループ学習の場を創出し、子どもが主体的に学習に取り組むよう、段階的に学習課題を設定し、学習意欲を高める。</p> <p>協働的な学びの場を創出し、子どもが主体的に学習に取り組むよう、段階的に学習課題を設定し、学習意欲を高める。</p> <p>協働的な学びの場を創出し、子どもが主体的に学習に取り組むよう、段階的に学習課題を設定し、学習意欲を高める。</p> <p>協働的な学びの場を創出し、子どもが主体的に学習に取り組むよう、段階的に学習課題を設定し、学習意欲を高める。</p>	<p>振り返りの場を創出し、子どもが主体的に学習に取り組むよう、段階的に学習課題を設定し、学習意欲を高める。</p> <p>振り返りの場を創出し、子どもが主体的に学習に取り組むよう、段階的に学習課題を設定し、学習意欲を高める。</p> <p>振り返りの場を創出し、子どもが主体的に学習に取り組むよう、段階的に学習課題を設定し、学習意欲を高める。</p> <p>振り返りの場を創出し、子どもが主体的に学習に取り組むよう、段階的に学習課題を設定し、学習意欲を高める。</p> <p>振り返りの場を創出し、子どもが主体的に学習に取り組むよう、段階的に学習課題を設定し、学習意欲を高める。</p>



授業の気づきを、一斉に書き込むことで、意見の収集・整理をまとめて行う

従来の授業研究会

1. プロセス1
2. プロセス1
3. 意見交換
(挙手指名型)
(ワークショップ型)
4. 助言

プロセス2

参加者の授業改善につながらない助言者に依存していないか？

リフレクションを促す授業研究会

7. 授業者の自評 (5分)
8. タブレットで一斉に記入(10分)
(奨励点ピンク、改善点水色)
9. 司会による整理：全体に共有 (5分)
10. 対話による改善のアイデア (10分)
11. 改善のアイデアを全体に共有：口頭 (10分)
12. 教科のまとめ (馬原) (10分)
13. 対話によるポイントの概念化(5分)
14. 対話しながら言葉にまとめる(5分)記録係
15. 対話による自分の授業の改善点(10分)
16. に各自記入して提出 (5分)
17. 全体でのまとめ (前田) (10分)
18. 全体の振り返り (学んだこと) (時間があれば)

教科研究会のプロセスデザイン



対話を通してアイデアを出し合う



司会が授業の改善点を取り上げ、改善案をみんなで出し合う



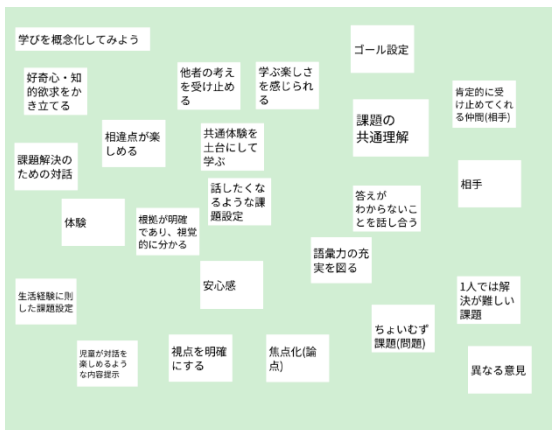
講師から、教科のポイントを学びとる

【取組内容④】 共同作業アプリを生かした新たな校内研修のプロセスデザイン

プロセス2：学びのリフレクション



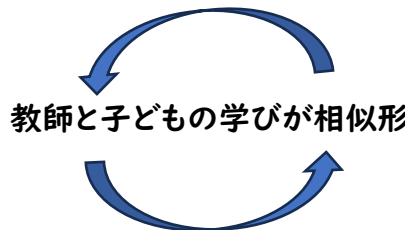
授業のポイントを概念化



授業のポイントを概念化して一斉に書き込むことで整理する



概念化した言葉をキーワードに、対話を通して授業の改善点を考える



改善点を踏まえ、自分の授業を振り返る

戻る		9/26 宮嶋先生の実践を受けての振り返り	
<p>いろいろな経験を出し合い、それを共有する中から課題を設定し、それを自分ごととして解決していくことが大切だと思ふ。いろいろな教員で生活経験を生かした学習を進めていきたい。</p> <p>9月26日(水) 16:33</p>	<p>自分ごとの学びを、子どもを生活に生かすアンケートを学習やめあてに生かすというのをもっと意識的にやっていきたいと思ふ。家庭科は、とても大切な学習だが、なかなか進まない。家庭科の学習を、教育活動全体で推進していきたいと思ふ。</p> <p>9月26日(水) 16:34</p>	<p>子供達からの経験も聞き取り、経験から課題を作る。みんな考えていく。友達の意見から自分の意見を求める。進捗自分に取り入れられることは何かという事で、他の意見を聞くというふうな姿勢を持たせることが大切だと学んだ。</p> <p>9月26日(水) 16:35</p>	<p>子どもたちから経験をよく聞き取り、家庭科が今年まで子どもたちが課題を気づけて、自分ごととして学習していくことで、学年が終わった後とつながることを学んだ。子どもたちの経験や学習内容を聞き合ひながら学習を進めていくのは難しいですが、これからの授業では自分ごとを生活していきたいです。</p> <p>9月26日(水) 16:35</p>
<p>「見つめる」の場面より振り返りの場面で考えたことや学んだことを必ずアウトプットするようにし、他者の考えから、自分自身から活用できそうかどうかを考えを促せるなどして、「自分だったら」という視点をもった教材も入れていきたい。</p> <p>9月26日(水) 16:36</p>	<p>家庭科だけでなく、「見つめる」場面をどの教科でも取り入れたいと思ふ。その場面でしっかり自分のことを見つめることができれば、その後の学習も自分自身から進んでいくことが期待できる。でも、他の教科と比べると「見つめる」を設定するのハードルが高い。授業の時間配りなども考えて、また、「見つめる」で終わってしまわないように意識しながら進めていきたいと思ふ。</p> <p>9月26日(水) 16:40</p>	<p>①どの教科においても、問題解決学習が大切だと改めて実感した。家庭科も問題解決学習で進めたい。</p> <p>②P/Fフォーラム課題の捉え方を改めて捉え直すことができた。具体的なP/Fフォーラムにつなげていく課題というものがわかった。さらに、伴という視点も忘れてはいけないと感じた！</p> <p>9月26日(水) 16:41</p>	<p>①どの教科においても、問題解決学習が大切だと改めて実感した。家庭科も問題解決学習で進めたい。</p> <p>②P/Fフォーラム課題の捉え方を改めて捉え直すことができた。具体的なP/Fフォーラムにつなげていく課題というものがわかった。さらに、伴という視点も忘れてはいけないと感じた！</p> <p>9月26日(水) 16:41</p>
<p>「見つめる」ことで自分ごととして考えようとするきっかけになっていけるようにしていくことが大切だが、その楽しさを感じてほしい。また、「アウトプット」の時点で、子どもたちの持つ得意な得意な方法をどう活かすか、どう伸ばすか、どうつなげるかを、今後につなげていきたい。</p> <p>9月26日(水) 16:41</p>	<p>9/26 振り返り★これからの自分が取り組むこと・授業の課題を設定するためには、児童の授業をベースに考えられるように、児童に促して自分ごとから課題の設定に導く・振り返りの時間を授業時間内に取る</p> <p>9月26日(水) 17:36</p>	<p>自分ごとを「見つめる」場面をつくることで、自分の経験や意見に繋がり、その後の学習の自信を持って子どもたちに入っていくことに繋がりました。またそのときに、子どもたちが経験や意見を聞き合ひながら、自分のことを「見つめる」ことが難しい子どももいるので、他の経験ははじめから「見つめる」と思いました。</p> <p>9月26日(水) 17:36</p>	<p>今回の研修の中で、架空の人物にアドバイスする形だと意見が出やすいと聞いて良かった。宮嶋先生と先生とのやり方や授業を作るという授業作りは私も少し見習ってみたいと思います。</p> <p>9月26日(水) 14:19</p>

振り返りを残すことで、教師の学びをポートフォリオしていく

リーディングDXスクール事業【実践事例】

熊本市立五福小学校(熊本県)

【取組内容④】 DXによる校務の効率化

Microsoft365を使った校務の共有



職員会議（資料）、スケジュール管理校務分掌担当からの連絡提案等、アンケート集約（フォームや共同編集）などペーパーレスを実践している。

クラウドツールによる共有および校務DX



校務クラウドによる文書管理、文書保存。端末から「いつでも取り出せる」システム。また、タブレットから出退勤ができる。

<ポイント>

校務の徹底したペーパーレス化

保護者等への発信等をペーパーレス化



クラウドを活用した欠席連絡

端末の活用による、校務の効率



校務PCだけでなくタブレット（iPad：LTE）を連携し同期させることで「いつでも、どこでも」を校務を実務できる環境を整え教師の働き方にも寄与している。

保護者に向けてフォームでアンケート

クラウドを活用し、保護者からの欠席連絡や学校からの連絡を行っている。

- 1 学校だより、学級通信、各連絡などを随時行う。紙による連絡はほとんどしない。
- 2 避難訓練などの安否、アンケート集約も安心メールを通して行っている。
- 3 PTAもペーパーレスでPTA資料等も紙は使わず、本校HPに置くことで閲覧できるようにしている。